

犬の登録・狂犬病予防集合注射



令和6年度犬の登録・狂犬病予防集合注射を行います。狂犬病予防法により、犬の所有者は年1回、狂犬病予防注射を受けさせることが義務付けられています。また、かかりつけの動物病院でも狂犬病予防注射を受けることができます。混雑を避けるため、事前に動物病院にお問い合わせください。

- 料金(1頭当たり)
 - ・登録手数料(新規のみ) 3,000円
 - ・注射料 2,800円
 - ・注射済票交付手数料 500円

●登録済の人は町から郵送されたはがきをご持参ください。登録済みの人には、町から「畜犬登録・注射票兼申請書」のはがきを郵送しています。問診の記入欄があるので、記入をして集合注射会場に持ってきてください。



令和6年度 犬の登録・狂犬病予防集合注射日程		
期 日	時 間	会 場
4月12日 (金)	9:00~9:30	矢護川コミュニティセンター
	9:50~10:20	仮宿公民館
	10:40~11:10	人権啓発福祉センター
	13:30~14:00	大津東小学校
	14:30~15:00	大津東区コミュニティセンター
4月13日 (土)	8:00~10:30	陣内地区公民館分館
4月14日 (日)	8:00~9:00	美咲野小学校体育館前
	9:30~10:30	大津町役場北側有料駐車場内*

*役場北側有料駐車場は駐車してから3時間までは無料です。



連載 輝く人権



人権擁護委員 津留 武芳さん

●問い合わせ
大津町役場人権推進課人権推進係
☎096(293)0863

今回は、人権擁護委員として活躍されている津留武芳さんにお話を聞きました。

人権擁護委員は法務大臣から委嘱を受け活動をしています。活動内容は、法務局と連携して人権相談を受けたり、人権について関心を持ってもらえるような啓発活動を行ったりしています。

阿蘇大津人権擁護委員協議会は3つの部会に分かれており、私は「高齢者・障がい者人権委員会」に所属しています。その他に「子ども人権委員会」「男女共同参画委員会」があります。

Q 高齢者・障がい者人権委員会の活動を教えてください。

主な活動は、阿蘇大津支局管内の10市町村(阿蘇郡市、合志市、菊陽町、大津町)の高齢者教室などの啓発活動を行っています。また、今年はパラリンピックの年でもあるため、障がい者スポーツを取り入れた人権教室も計画しています。

Q 人権擁護委員としてどんな活動をしていますか

法務局では週3回、人権相談を受けています。私が受けた相談の中には、外国籍の家族の就学相談がありました。関係機関を紹介しながら家族でしっかり相談されるようお答えしました。

また、人権の問題だけではなく、土地の境界問題の相談もあり、法務局の専門家につなぎました。

Q これから力を入れていきたいことは何ですか。

まず老人会やサロンの啓発活動はこれまで通り、区長さんや役場と連携しながら進めていきます。

最近では、法務局での自筆証書遺言書の作成、保管への関心も高くなっているため、情報発信に力を入れています。

また、障がい者などへの「合理的配慮」についても、多くの人に広めていきたいと考えています。そのこととは単に、障がい者だけでなく、誰にとっても住みよい町づくりになるはずだと考えています。

「和気あいあい」で4つの「り」(ゆったり・じっくり・はつきり・ゆっくりに)で相談に当たりたいと思います。



高齢者教室で人権啓発活動を行う津留さん

おおづのしごと 大津町企業連絡協議会 vol.54

トラストライフ株式会社

『信用・信頼』を最も大事にする企業体を目指して



第一工場外観 第一工場内(四輪部品組立作業場)

私たちの会社は自動車(四輪)部品の組付けと二輪部品のアルミダイカストバリ取りを行っております。設立は平成26年6月で第一工場・第二工場の2拠点で事業を行っております。四輪・二輪は多くの部品から構成されており、特に品質については全世界でも日本はトップと言っても過言ではないと考えております。これも各お取引企業様の努力と進化にあると思います。こうした物づくりに対し弊社もお客様の求められる物以上の製品作りに日々改善と進化を追求しながら地域にも頼られる企業創りを目指してまいります。現在熊本県内は半導体の進出に伴い目まぐるしく変化しておりますが、弊社も環境変化をチャンスと捉え大津町の地域社会に貢献できるように従業員が一丸となり精進してまいります。キャッチコピーにもあります『信用・信頼』を念頭に置き取り組んでまいりますので宜しくお願いいたします。



代表取締役社長 水沼 浩史さん

- 【企業概要】
- 所在地 大津町大字杉水 935-3
 - 業 種 自動車(二輪部品・四輪部品)組立と研磨
 - 従業員数 33人
 - 事業内容 四輪部品の小組と二輪部品のバリ取り
 - 連絡先 ☎096(273)9117

ホームページはこちら▶



くらべてみよう! クロッシングカルチャーズ vol.18 CROSSING CULTURES

オースティンが日本の文化とアメリカの文化を比較して紹介する「CROSSING CULTURES」第18回となる今回は「アメリカでの家族という考え方」をご紹介します。

日本とアメリカでは家族との関わり方や考え方に違いがあります

アメリカでは「家族」の概念がとても難しいです。アメリカでは、自立することや自分で生活できることが誇りであり、多くの若者がそれを目指しています。そのため、子どもたちは若ければ16歳でアルバイトをして、同時に車の運転も始めます。最近では、20代から30代の若い世代で教育ローンの支払いが高額になることや、生活するうえでさまざまなことにお金がかかることから、親との同居を判断する人が多くなっています。逆に、早く家を出て、自ら家庭を築こうとする人もいます。家を出たアメリカ人の約7割は、家族への電話は毎月1回程度と言われています。私は日本に来てから、家族との関わり方に対するイメージが大きく変わりました。日本では家族を病院に連れていくために休みを取ったり、家庭を築いた後でも両親と一緒に暮らしたりと、

アメリカよりもより親密な関係にあるのだなと感じました。私は日本での「家族」の考え方は本当に良いのだと思います。



オースティンさんの家族